

令和 5 年度 築瀬小学校 学校評価書

※ 網掛けのない部分が評価計画，網掛けの部分が評価結果を受けて記入する。

1 教育目標（目指す児童像含む）

<基本目標>

思いやりの心と自ら学び，正しく判断できる力をもった，知・徳・体の調和のとれた人間性豊かな児童の育成

<具体目標(具体的な児童像)>

ア 自ら学ぶ子（知育）

自ら学び，自ら考え判断し，表現し，主体的に問題を解決する能力を養う。

イ 思いやりのある子（徳育）

他を思いやる心や感動する心など，豊かな心を養う。

ウ たくましい子（体育）

たくましく生きるための心身の健康と体力を養う。

2 学校経営の理念（目指す学校像含む）

学校教育目標に向け，家庭・地域の願いを踏まえ，児童と職員の共感，共汗，共歓を大切にするとともに，活気あふれる学校，やる気と自己有用感に満ちた児童，信頼される職員を目指すことにより，達成を図る。

3 学校経営の方針（中期的視点） ※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針は文頭に○印を付ける。

(1) やなぞ 3 つの「共」

- ◇ 共感 ・ 児童の内面を共感的に受け止め，児童理解を深める。
・ 児童と共に，授業や学校行事などにおいて，感動を味わう
- ◇ 共汗 ・ 児童が考えや意見を出しながら，協働的に学ぶ。
・ 児童と共に，共遊や清掃などにおいて，運動したり働いたりする。
- ◇ 共歓 ・ 児童が自分を発揮する中で，互いのよさを認めながら育つ。
・ 児童と共に，学習や生活などにおいて，成長を歓ぶ。

(2) 目指す学校像，児童像，職員像

- ◇ 活気あふれる学校
 - ・ 校務分掌における取組や家庭・地域との連携を推進し，「教育目標」の具現化を図る。
 - ・ 創意ある提案や意見交換により組織力を強め，学校経営への参画意識を高める。
 - ・ 社会の変化に対応するため，新たなことに挑戦し，明るく前向きな職場をつくる。
- ◇ やる気と自己有用感に満ちた児童
 - ・ 児童の内面を共感的に受け止め，安心して生活できるよう，一人一人を大切にする。
 - ・ 児童が集団の中で自分を発揮し，他と協働する体験を重ね，一人一人と集団を育てる。
 - ・ 児童のよさや成長を見取り，認め励ます指導により，自己肯定感を高める。
- ◇ 信頼される職員
 - ・ 安全・安心な環境を整え，人権感覚を磨き，服務規律，業務の効率化を確保する。
 - ・ 家庭や地域の声を聞き，問題点を速やかに改善するなど，誠意ある対応をする。
 - ・ 学校の取組・成果の見える化に向けて情報を積極的に発信し，家庭，地域の理解を得る。

【旭地域学校園教育ビジョン】

「地域に愛される旭っ子」の育成 ～地域との豊かなかかわりを目指して～

4 教育課程編成の方針

- ・ 国，県の法令や指針，市の推進計画，スタンダード，指導の重点などを踏まえ，学校経営方針に基づき，知・徳・体の調和のとれた教育活動を展開し，教育目標の達成を期する。
- ・ 社会の変化へ対応できるよう，教育活動相互の関連や地域の教育資源の活用などにより，知識及び技能，思考力・判断力，表現力等，学びに向かう力や人間性等を育成する。
- ・ 児童や学校経営に関する各種調査結果を，授業や学校経営の改善に生かし，教育活動の見直し，校内外の資源活用など，実態に即した創意ある教育課程の編成につなげる。

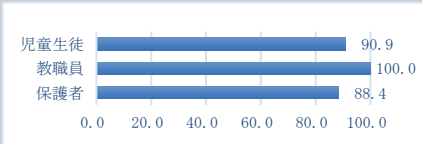
5 今年度の重点目標（短期的視点）※「小中一貫教育・地域学校園」に関する重点目標は文頭に○印を付ける。

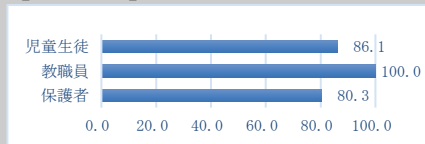
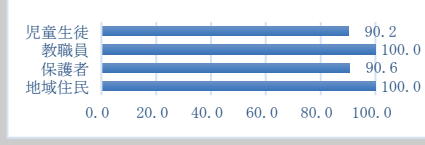
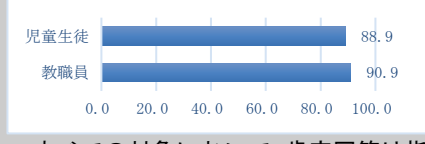
(1) 学校運営
一人一人と集団を育てる教育の実践，組織力・同僚性による効率的な職務の遂行，家庭・地域と一体となった取組の推進などによる，活気のある信頼される学校づくり
(2) 学習指導
自ら問いを見出し，他者との関わり合いを通して協働的に学ぶ
(3) 児童生徒指導
基本的な生活習慣や判断力を身に付け，相手を思いやり，互いに協調しながら学校生活の向上に努める児童の育成
(4) 健康（保健安全・食育）・体力
心身ともに健全で安全な生活を送るための資質・能力を備え，進んで健康・体力の向上を目指す児童の育成

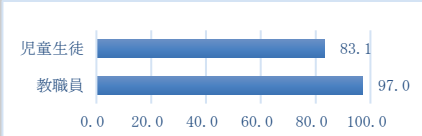
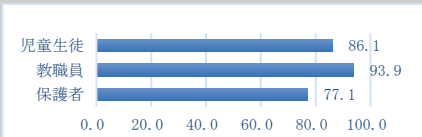
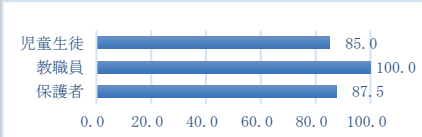
6 自己評価 A1～A20は市共通評価指標 B1～B7は学校評価指標（小・中学校共通，地域学校園共通を含む）

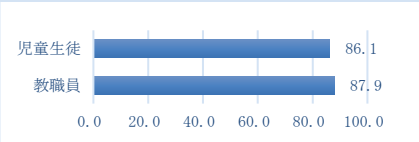
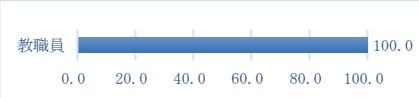
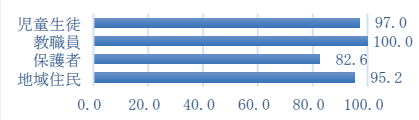
※「主な具体的な取組の方向性」には，A拡充 B継続 C縮小・廃止，を自己評価時に記入

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は，文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

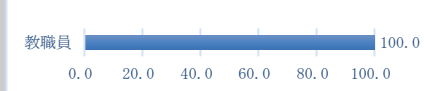
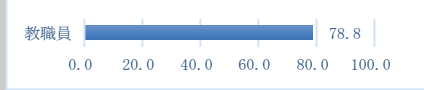
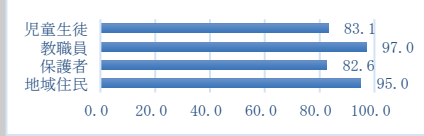
第2次宇都宮市学校教育推進計画後期計画基本施策	評価項目	主な具体的な取組	方向性	評 価								
1ー（1） 確かな学力を育む教育の推進	A 1 児童は、他者と協力したり、必要な情報を集めたりして考えるなど、主体的に学習に取り組んでいる。 【数値指標】 全体アンケートの「私は、学習課題を解決するために、友達と話し合ったり、必要な情報を集めたりしながら、じっくり考え、進んで学習に取り組んでいる。」「児童は、友達と話し合ったり、必要な情報を集めたりしながら、じっくり考え、進んで学習に取り組んでいる。」 ⇒児童、保護者の肯定的回答率 85%以上	① <u>毎時間の授業の中で、学習のめあての提示を工夫し、児童が進んで学習に取り組めるようにする。</u> ② <u>児童が相手の考えと比べたり、分かろうとしたりする姿勢で学習に取り組む聴き方の指導を行う。</u> ③ <u>具体的な操作活動をしたり、情報を収集・選択して思考したりする活動を取り入れる。</u>	B	【達成状況】  <table><tr><td>児童生徒</td><td>90.9</td></tr><tr><td>教職員</td><td>100.0</td></tr><tr><td>保護者</td><td>88.4</td></tr></table> すべての対象において、肯定回答は指標を達成した。教職員において、指標を10ポイント以上、上回った。 【次年度の方針】 児童が進んで学習に取り組めるよう、学習のめあてを明示して授業を行うことができた。次年度も継続して指導していく。 グループでの話し合いがスムーズに行えるように話型を示す等の工夫をしていく。 具体物を取り入れるなど、活動の取組の実践を年計に記入し蓄積していく。	児童生徒	90.9	教職員	100.0	保護者	88.4		
児童生徒	90.9											
教職員	100.0											
保護者	88.4											
1ー（2） 豊かな心を育む教育の推進	A 2 児童は、 <u>思いやりの心をもっている。</u> 【数値指標】 全体アンケートの「児童は、誰に対しても、思いやりの心をもって優しく接している。」 「児童は、地域住民に、思いやりの心をもって接している。」 ⇒児童、保護者、地域の肯定的回答率 85%以上	① <u>帰りの会等で、友達のよさを認め励まし合う活動を取り入れることで、互いに思いやりのある行動をしようとする雰囲気をも高める。</u> ② <u>「やなせフェスティバル」などの縦割り班活動や、「ありがとうの会」などの行事を通して、友達や地域の方々への感謝をもち、思いやりの心の育成を図るため、振り返りの充実を図る。</u>	B	【達成状況】  <table><tr><td>児童生徒</td><td>89.4</td></tr><tr><td>教職員</td><td>97.0</td></tr><tr><td>保護者</td><td>92.3</td></tr><tr><td>地域住民</td><td>100.0</td></tr></table> すべての対象において、肯定回答は指標を達成し、教職員・地域住民において指標を10ポイント以上、上回った。 【次年度の方針】 次年度も思いやりの心を高める学級づくりを進め、児童会活動や学校行事における活動を充実させる。	児童生徒	89.4	教職員	97.0	保護者	92.3	地域住民	100.0
児童生徒	89.4											
教職員	97.0											
保護者	92.3											
地域住民	100.0											

	A 3 児童は、目標に向かってあきらめずに、粘り強く取り組んでいる。 【数値指標】 全体アンケートの「わたしは、夢や目標に向かってあきらめずに、粘り強く取り組んでいる。」 ⇒児童、保護者の肯定的回答率 80%以上	① 学校行事や児童会活動等にめあてをもって、最後まであきらめずに取り組む態度の育成を図る。 ② 学習や運動で、自分の取り組みへの継続的な頑張りや伸びが分かるように、カード等の活用を図るとともに、学年たよりやHP等を活用し児童の継続的な頑張りや伸びを家庭や地域に発信する。	【達成状況】  <table><tr><th>対象</th><th>達成率 (%)</th></tr><tr><td>児童生徒</td><td>86.1</td></tr><tr><td>教職員</td><td>100.0</td></tr><tr><td>保護者</td><td>80.3</td></tr></table> すべての対象において、肯定回答は指標を達成したが、教職員と保護者に19.7ポイントの差がある。 【次年度の方針】 行事などの活動前に個人のめあてを立てさせ、振り返りの場面を効果的に設ける。 次年度もホームページ等を活用し、学校での児童の継続的な頑張りや伸びをさらに家庭や地域に発信していく。	対象	達成率 (%)	児童生徒	86.1	教職員	100.0	保護者	80.3		
対象	達成率 (%)												
児童生徒	86.1												
教職員	100.0												
保護者	80.3												
1ー(3) 健康で安全な生活を実現する力を育む教育の推進	A 4 児童は、健康や安全に気を付けて生活している。 【数値指標】 全体アンケートの「児童は、健康や安全に気を付けて生活している。」「児童は、学校行事や休み時間等において元気に活動したり、安全に気を付けて生活したりしている。」 ⇒児童、保護者、地域住民の肯定的回答率 80%以上	① 児童一人一人が健康な生活を意識し、手洗いやうがいの励行など習慣化できるよう日々の声かけや委員会活動と関連した掲示物の工夫をする。 ② 安全面に気を付けて生活できるよう、登下校の際の安全な歩き方や、休み時間の過ごし方など学校生活全体で危険を予測して、自ら対応しようとする危ない行動をとらないような意識を育てる。	【達成状況】  <table><tr><th>対象</th><th>達成率 (%)</th></tr><tr><td>児童生徒</td><td>90.2</td></tr><tr><td>教職員</td><td>100.0</td></tr><tr><td>保護者</td><td>90.6</td></tr><tr><td>地域住民</td><td>100.0</td></tr></table> すべての対象において、肯定回答は指標を達成し、指標を10ポイント以上、上回った。 【次年度の方針】 児童一人一人が健康や安全な生活を意識し、自ら正しい行動ができるよう、今後も継続して指導や声掛けを行う。 保護者や地域住民の方には、引き続き学校での取組をホームページなどを活用して周知していく。	対象	達成率 (%)	児童生徒	90.2	教職員	100.0	保護者	90.6	地域住民	100.0
対象	達成率 (%)												
児童生徒	90.2												
教職員	100.0												
保護者	90.6												
地域住民	100.0												
1ー(4) 将来への希望と協働する力を育む教育の推進	A 5 児童は、自分のよさや成長を実感し、協力して生活をよりよくしようとしている。 【数値指標】 全体アンケートの「児童は、互いの良さを生かしながら、進んで意見を発表したり、協力したりして、集団での課題を解決している。」 ⇒児童、教職員の肯定的回答率 80%以上	① 児童のよさや成長を見取り、教職員間で見つけた子供のよさを共有し合い、子供たちを認め励ましていく。 ② 児童の自己存在感、自己肯定感を育てるために、集団の中で自分の役割を果たすことで周りの人から認められるような活動を行っていく。 ③ 係・当番活動の振り返りを適切に取り入れる。	【達成状況】  <table><tr><th>対象</th><th>達成率 (%)</th></tr><tr><td>児童生徒</td><td>88.9</td></tr><tr><td>教職員</td><td>90.9</td></tr></table> すべての対象において、肯定回答は指標を達成し、指標を10ポイント近く上回った。 【次年度の方針】 学校教育目標を常に意識しながら、お互いの良さを認める機会を意図的に設定する。 係活動では、一人一役を設定するなどして、自己存在感を高めていく学級づくりを行っていく。	対象	達成率 (%)	児童生徒	88.9	教職員	90.9				
対象	達成率 (%)												
児童生徒	88.9												
教職員	90.9												

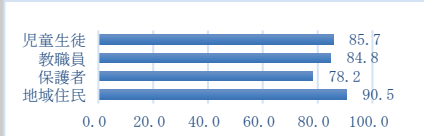
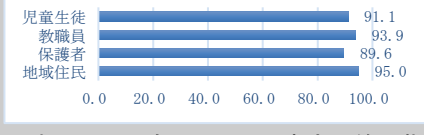
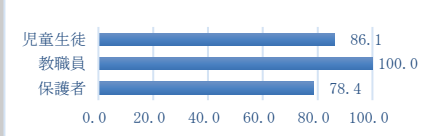
2- (1) グローバル 社会に主体 的に向き合 い、郷土愛 を醸成する 教育の推進	A 6 児童は、英語を使ってコミュニケーションしている。 【数値指標】 全体アンケートの「児童は、外国語活動（英語）の授業やALT との交流の際に、英語を使ってコミュニケーションしている。」 ⇒児童、教職員の肯定的回答率 80%以上	① 英単語を使った活動や、先生や友達とのコミュニケーションを通して、会話をするための英語表現に慣れ親しめるようにする。 ② 階段や各教室等の掲示物を通して、児童が日常生活の中で英語に触れる機会を増やす。 ③ 他国における挨拶の掲示資料を作成して、日常のコミュニケーションに生かせるようにする。	【達成状況】  すべての対象において、肯定回答は指標を達成したが、児童と教職員に 13.9 ポイントの差がある。 【次年度の方針】 授業のみならず、休み時間を始め諸活動の中でALT から積極的にコミュニケーションをとってもらうようにしていく。 さらに多くの児童が「英語を使っている」と思えるような、声掛けや振り返りを充実させる。
	A 7 児童は、宇都宮の良さを知っている。 【数値指標】 全体アンケートの「私は、宇都宮の良さを知っている。」 ⇒児童、教職員、保護者の肯定的回答率 80%以上	① 生活科や総合的な学習、社会科の学習で、地域や宇都宮の歴史や有名な場所を調べる学習を行うことで、宇都宮についての知識を深める。 ② 築瀬地区や宇都宮市に昔から伝わる伝統的な行事や、イベントに参加することで、人とのつながりや行事のよさを知ろうとする態度を育成する。 ③ 築瀬地区や宇都宮市に係る資料やニュースを掲示するコーナーを設け、地域のよさを知る環境を整える。 ④ 保護者や地域に向けて、学校たよりやHPによる広報活動を継続的に発信していく。	【達成状況】  児童、教職員の肯定回答は指標を上回ったが、保護者は 2.9 ポイント下回った。 【次年度の方針】 「築瀬地区の伝統行事」を提示できないので②の提示内容を変更し、①と合わせて、「宇都宮の知識を深め、宇都宮のよさを知ろうとする態度を育成する。」とする。 児童が学習した内容を校内に掲示・発信する活動を行っていく。 児童の学習した内容や取り組みを学校だよりやホームページで発信していく。
2- (2) 情報社会と 科学技術の 進展に対応 した教育の 推進	A 8 児童は、デジタル機器や図書等を学習に活用している。 【数値指標】 全体アンケートの「私は、パソコンや図書等を学習に活用している。」 ⇒児童、教職員、保護者の肯定的回答率 80%以上	① 図書室を計画的に利用し調べ学習の際には、図書室を意図的に活用し、課題解決のための本の選択・収集する力を育む。 ② タブレットを使う機会を意図的に設けたりして、児童のICT機器の活用技術を高められるようにする。 ③ 調べたことや自分の考えをまとめる際、ICT機器を活用し、相互に共有、比較、修正するなど、書く力の向上を図る。 ④ 授業補助としてICT支援員を活用したり、必要に応じて校内研修を行ったりすることで、児童の技能及び教職員のICT機器の活用技術の向上を図る。 ⑤ 学年たよりやHP等を通して、児童がICT機器を活用している様子を発信していく。	【達成状況】  すべての対象において、肯定回答は指標を達成したが、児童と教職員に 15 ポイント、保護者と教職員に 12.5 ポイントの差がある。 【次年度の方針】 授業や行事などでデジタル機器や図書等を活用している様子を、ホームページで発信する。 教職員は引き続き、ICT機器の活用技術を高め、継続して児童への指導を行う。

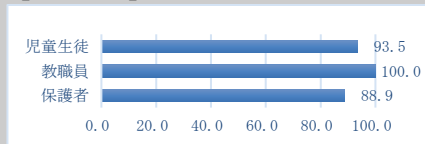
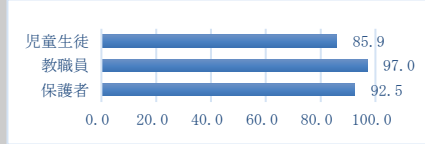
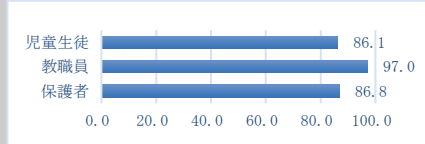
2- (3) 持続可能な社会の実現に向けた担い手を育む教育の推進	A9 児童は、「持続可能な社会」について、関心をもっている。 【数値指標】 全体アンケートの「わたしは、みずやでんきをたいせつにしたり、しょくぶつやどうぶつをたいせつにしたりしている。」 ⇒児童、教職員の肯定的回答率 80%以上	① 環境委員会の活動を通して、全校生で主としてペットボトルキャップの回収を行ったり、日々の生活の中での節電や節水を呼びかけたりすることで、環境を大切にしようとする意識を高める。 ② 社会科や家庭科、総合的な学習の授業で、環境問題や環境を守る学習を行い、実践に向けての知識の定着を図る。 ⑥ 身近な給食指導において食育の視点を生かして、健康や食料の大切さに対する意識を高める。 ⑦ 「持続可能な社会」に向けてごみを減らすなど学校で行っている環境に配慮した取り組みを周知し、地域も含め学校全体の関心を高める。	【達成状況】  児童生徒 86.1 教職員 87.9 すべての対象において、肯定回答は指標を達成した。 【次年度の方針】 次年度も社会科や家庭科、総合的な学習、生活科の授業における環境問題や環境を守る学習を充実させるとともに、学年に応じて実践活動を行っていく。 「持続可能な社会」に向けて、児童会活動を中心に学校で行っている環境に配慮した取り組みの周知を行い、学校全体の関心を高めていく。 「持続可能な社会」について、関心をもたせるために、身近な給食指導において食について考えさせ、健康や食料の大切さに対する意識を高める。 図書室の SDGs の関連書籍等を活用し、児童の関心を高め、知識を深める。
3- (1) インクルーシブ教育システムの充実に向けた特別支援教育の推進	A10 教職員は、特別な支援を必要とする児童の実態に応じて、適切な支援をしている。 【数値指標】 全体アンケートの「教職員は、特別な支援を必要とする児童の実態に応じて、適切な支援をしている。」 ⇒教職員の肯定的回答率 80%以上	① 特別な支援を必要とする児童の共通理解を図る場を設け、全職員が児童の実態を把握する。 ② 関連する資料を提供するなどして、特別な支援の在り方についての理解を深める。 ③ 教材研究を進め、児童一人一人に合った授業支援の在り方を実施するとともに、必要に応じてかがやきルームや日本語指導教室の活用を検討する。	【達成状況】  教職員 100.0 教職員の肯定回答は指標を達成し100%だった。 【次年度の方針】 引き続き支援を必要とする児童の共通理解を図る場を設けたり、全職員が児童の実態を把握したりする。 担任の困り感などに応じて支援委員会を開催し、かがやきルームや日本語教室の活用を図っていく。
3- (2) いじめ・不登校対策の充実	A11 教職員は、いじめが許されない行為であることを指導している。 【数値指標】 全体アンケートの「学校は、いじめ対策に熱心に取り組んでいる。」「学校は、いじめの未然防止・早期発見に向けた取組を発信したり、地域に見守りを依頼したりするなど、地域と連携している。」 ⇒児童、保護者、地域の肯定的回答率 85%以上	① いじめゼロ強調月間での取組を通して、いじめが許されない行為であることを指導するとともに、年2回の教育相談を実施し、児童の悩み等をきめ細かに把握し解決を図る。 ② 学級懇談時や学年たより等を通して、学校の取組を保護者に伝え協力を得るとともに、保護者や児童の思いを十分に受け止め、強い意志をもって指導に当たる。	【達成状況】  児童生徒 97.0 教職員 100.0 保護者 82.6 地域住民 95.2 児童、教職員、地域住民の肯定回答は指標を上回ったが、保護者は2.4ポイント下回った。 【次年度の方針】 いじめゼロに向け、家庭、地域と協力して取り組めるよう、学校での取り組みや活動の様子、児童への指導に関する情報をさくら連絡網やホームページなどを活用して家庭や地域住民へ積極的に伝えていく。 今年度の取組を継続していくと同時に、いじめ根絶集会を児童参加型にするなどの実施方法を検討する。

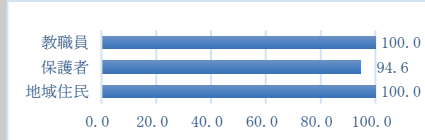
	A12 教職員は、不登校を生まない学級経営を行っている。 【数値指標】 全体アンケートの「先生方は、一人一人を大切にし、児童がともに認め励まし合うクラスをつくってくれている。」 ⇒児童、教職員、保護者の肯定的回答率 85%以上	① 児童間のよりよい関係づくりのために、Q-U や教育相談について校内で研修を行い、それらを生かした学級経営を実施する。 ② 欠席が続く児童に対して、電話や家庭訪問を行うとともに、関係機関やスクールカウンセラー等とも連携を図り、児童に適したアプローチを継続的に行う。 ③ 児童が抱える問題について関係職員で情報を共有した後に、職員全体でも共通理解を図り学校全体で児童の指導にあたる。	【達成状況】 <table><tr><th>対象</th><th>達成率 (%)</th></tr><tr><td>児童生徒</td><td>95.0</td></tr><tr><td>教職員</td><td>100.0</td></tr><tr><td>保護者</td><td>90.9</td></tr></table> すべての対象において、肯定回答は指標を達成したが、保護者と教職員に 9.1 ポイントの差がある。 【次年度の方針】 児童が抱える問題について早期発見に努めたり、関係職員で情報を共有した後に職員全体でも共通理解したりしていく。 引き続き保護者や関係機関等と連携を図りながら、それぞれに適したアプローチを継続的に行っていく。	対象	達成率 (%)	児童生徒	95.0	教職員	100.0	保護者	90.9		
対象	達成率 (%)												
児童生徒	95.0												
教職員	100.0												
保護者	90.9												
3- (3) 外国人児童生徒等への適応支援の充実	A13 学校は、一人一人が大切にされ、活気があり、明るくいきいきとした雰囲気である。 【数値指標】 全体アンケートの「教職員は、児童の悩みに寄り添い、相談に乗ったり、問題の解決に努めたりして、児童生徒が明るくいきいきと学校生活を送れるようにしている。」「学校行事等において、様々な立場の児童が、互いを尊重し合って活動を行っている。」 ⇒児童、保護者、地域の肯定的回答率 85%以上	① <u>児童一人一人の話をよく聞いた</u>り、<u>帰りの会等で児童同士がよさを認め合う場を設定したりして、互いに認め励まし合う集団づくりを図る。</u> ② <u>運動会やなぜフェスティバル、ふれあい活動、ありがとうの会、音楽集会等にて児童が主役となって活躍する場を設定し、達成感や成就感、思いやりの心を育む。</u>	【達成状況】 <table><tr><th>対象</th><th>達成率 (%)</th></tr><tr><td>児童生徒</td><td>94.1</td></tr><tr><td>教職員</td><td>100.0</td></tr><tr><td>保護者</td><td>89.8</td></tr><tr><td>地域住民</td><td>100.0</td></tr></table> すべての対象において、肯定回答は指標を達成したが、保護者と教職員に 10.2 ポイントの差がある。 【次年度の方針】 「なぜフェスティバル」や「ありがとうの会」が、思いやりの心の育成につながるよう、全校への目的の発信や振り返りの工夫を試みる。 児童同士がよさを認め合う場を意図的に設定したり、教職員が児童のよさを認める言葉かけをしたりすることで、互いに認め励まし合う集団になるよう導いていく。	対象	達成率 (%)	児童生徒	94.1	教職員	100.0	保護者	89.8	地域住民	100.0
対象	達成率 (%)												
児童生徒	94.1												
教職員	100.0												
保護者	89.8												
地域住民	100.0												
3- (4) 多様な教育的ニーズへの対応の強化													
4- (1) 教職員の資質・能力の向上	A14 教職員は、分かる授業や児童にきめ細かな指導を行い、学力向上を図っている。 【数値指標】 全体アンケートの「教職員は、児童一人一人が理解できるように教材を工夫するなど、きめ細かな指導をしている。」 ⇒児童・保護者の肯定的回答率 80%以上	① 校内研修を計画的・継続的に実施するとともに、互いの授業を見合い、意見を交換し合いながら、授業力の向上を目指す。 ② 今年度の学校課題「社会への関心を高め、他者とともに追究し、主体的な学びができる児童の育成～社会的な見方・考え方を働かせて、問いを追究する社会科学習～」を図るために、児童の実態を把握するとともに児童一人一人がめあてをもち、主体的・協働的学習に取り組めるよう工夫する。 ③ 学力調査等の結果活用や日常の姿から、基礎・基本の習得が必要な個別の指導体制を整えていく。	【達成状況】 <table><tr><th>対象</th><th>達成率 (%)</th></tr><tr><td>児童生徒</td><td>94.8</td></tr><tr><td>教職員</td><td>97.0</td></tr><tr><td>保護者</td><td>85.7</td></tr></table> すべての対象において、肯定回答は指標を達成した。児童・教職員において指標を 10 ポイント以上上回ったが、保護者と教職員に 11.3 ポイントの差がある。 【次年度の方針】 実際に行っている授業実践の様子や工夫等もホームページで発信していく。 次年度も学習形態や資料提示などを工夫して、児童一人一人がめあてをもち、主体的・協働的学習に取り組めるよう継続していく。	対象	達成率 (%)	児童生徒	94.8	教職員	97.0	保護者	85.7		
対象	達成率 (%)												
児童生徒	94.8												
教職員	97.0												
保護者	85.7												

4- (2) チーム力の 向上	A15 学校に関わる職員全員がチームとなり、協力して業務に取り組んでいる。 【数値指標】 全体アンケートの「学校に関わる職員全員がチームとなり、協力して業務に取り組んでいる。」 ⇒教職員の肯定的回答率 85%以上	① 学校図書館司書、ALTと事前打合せや事後の振り返りを共に行う時間を設けることで、より効果的な授業を目指す。 ② かがやきルーム指導担当、スクールカウンセラーとの連携を図り、児童理解や効果的な学習法を共に模索していく。 ③ 教職員のたて割りのチームを編成し、課題検討や互いに情報交換をするなど、同僚性を高め合う。	【達成状況】  教職員の肯定的回答は指標を達成し100%だった。 【次年度の方針】 今後も職員間の連携を密にし、深い児童理解や質の高い授業の展開に努めていく。 今年度編成した教職員のたて割りチームによる活動をさらに活性化し、さらなる同僚性の向上に努める。
4- (3) 学校における働き方改革の推進	A16 勤務時間を意識して、業務の効率化に取り組んでいる。 【数値指標】 全体アンケートの「私は、教職員の勤務時間を意識して、業務の効率化に取り組んでいる。」 ⇒教職員の肯定的回答率 80%以上	① 学校行事や児童会行事、学年行事ごとの反省をもとに、学校・学年・児童会等の行事を精選したり、より学習効果が効率よく実施できるよう、改善したりする。 ② 教職員一人一人が、勤務時間を意識し、計画的に業務を行うとともに、毎月、学校全体または学年でリフレッシュデーを設定し、時間を意識しながら勤務する。 ③ 会議や打合せの時間の終了時刻を決めて協議内容を必要最低限に抑えたり、ミライムの掲示板等を利用したりして、時間短縮を図る。	【達成状況】  教職員の肯定的回答は指標を 1.2 ポイント下回った。 【次年度の方針】 学校・学年・児童会等の行事の反省を生かし、行事の精選や内容の見直しを通して、次年度の計画に生かし実施していく。 さくら連絡網を活用し、保護者に向けた連絡を精選することで、仕事の効率を図る。 業務の効率化について、できることを教職員間で考え、実践していく。 業務の効率化を通し、教材研究や児童と向かい合う時間の確保に努める。
5- (1) 全市的な学校運営・教育活動の充実	A17 学校は、「<u>小中一貫教育・地域学校園</u>」の取組を行っている。 【数値指標】 全体アンケートの「学校は、児童や教職員の交流、小中一貫教育カリキュラムの作成・見直しなど、小中一貫教育・地域学校園の取組を行っている。」「学校は、小学生と中学生の交流の場をつくったり、掲示物で互いの学校の情報を伝え合ったりする小中一貫教育・地域学校園の取組を行っている。」 ⇒児童、保護者、地域の肯定的回答率 80%以上	① <u>小学校への乗り入れ授業や児童生徒指導連絡協議会等の実施を通して、児童・生徒の情報交換を行うとともに、学習内容・指導法等の理解を深める。</u> ② <u>卒業生の積極的な行事等への参加を通して、児童の中学校進学への不安感を減らしたり、地域学校園としての所属感を高めたりする。</u> ③ <u>学校便りや学校ホームページを通して、保護者や児童に向けて「旭地域学校園」の目標や具体的な取組を周知していく。</u>	【達成状況】  すべての対象において、肯定回答は指標を達成したが、児童と教職員において指標が13.9ポイント、保護者と教職員では14.4ポイントの差がある。 【次年度の方針】 乗り入れ授業や中学校訪問については、対象が6年生のみとなっており、他学年の児童や保護者に活動内容が十分に伝わっていなかったものと思われる。今後は、さらに小中一貫教育・地域学校園の取組について、周知していく。 運動会や小中合同あいさつ運動などの行事において、卒業生と本校児童が一緒に活動できる場面を増やすなどの工夫をしていく。
5- (2) 主体性と独自性を生かした学校経営の推進	A18 学校は、家庭・地域・企業等と連携・協力して、教育活動や学校運営の充	① <u>築瀬地区の各種団体や魅力ある学校づくり地域協議会等の活動を通し</u>	【達成状況】

5ー(3) 地域と連携・協働した学校づくりの推進	実を図っている。 【数値指標】 全体アンケートの「学校は、家庭・地域・企業等と連携・協力して、教育活動や学校運営の充実を図っている。(魅力ある学校づくり地域協議会、学校支援ボランティア、企業等、地域の教育力を生かした教育活動など)」 ⇒保護者・地域住民の肯定的回答率 80%以上	て、学校と家庭・地域が連携し、地域の教育力を生かした教育活動の充実を図る。 ② 出前授業や夢授業など、地域の人材や企業等と連携した活動を取り入れることで、キャリア教育の充実を図る。	<table><tr><td>児童生徒</td><td>88.1</td></tr><tr><td>教職員</td><td>100.0</td></tr><tr><td>保護者</td><td>90.7</td></tr><tr><td>地域住民</td><td>95.0</td></tr></table> すべての対象において、肯定回答は指標を達成し、教職員・保護者・地域住民において指標を 10 ポイント以上、上回った。 【次年度の方針】 高学年では地域協議会の協力のもと、地域の人材や団体等と連携した教育活動を行い、キャリア教育の充実を図ることができた。今後も引き続き、家庭・地域と連携し、教育活動を充実させていく。 低・中学年においても土曜授業などの機会に、企業による出前授業や学校支援ボランティアの参画を積極的に取り入れ、地域の教育力を生かした教育活動の充実を図る。	児童生徒	88.1	教職員	100.0	保護者	90.7	地域住民	95.0
児童生徒	88.1										
教職員	100.0										
保護者	90.7										
地域住民	95.0										
6ー(1) 安全で快適な学校施設整備の推進	A19 学校は、利用する人の安全に配慮した環境づくりに努めている。 【数値指標】 「学校は、利用する人の安全に配慮した環境づくりに努めている。(校内の施設、設備、駐車場など)」 ⇒保護者・地域住民の肯定的回答率 80%以上	① 教職員による毎月 1 回の定期環境点検の他、随時異状があった場合には管理職に報告し、危険箇所に対して修繕・撤去等の対策を講じる。 ② 長期休みや行事前の特別清掃 PTA 親子奉仕活動・教職員による環境点検等、安全な環境づくりに向けて活動する。 ③ 清掃活動には、気働きの心で時間いっぱい自ら取り組むよう働きかける。 ④ 保護者や地域住民の方々に対して、学校での取組みをさらに周知するために、学校たよりやHPなどを活用していく。	【達成状況】 <table><tr><td>教職員</td><td>93.9</td></tr><tr><td>保護者</td><td>88.6</td></tr><tr><td>地域住民</td><td>85.7</td></tr></table> すべての対象において、肯定回答は指標を達成した。 【次年度の方針】 定期点検や日常の点検を通して、危険箇所の早期発見・早期対応に努め、引き続き安全に配慮した環境づくりをしていく。 引き続き保護者や地域住民の方々にに対して、学校での取り組みをホームページなどを活用し周知していく。	教職員	93.9	保護者	88.6	地域住民	85.7		
教職員	93.9										
保護者	88.6										
地域住民	85.7										
6ー(2) 学校のデジタル化推進	A20 コンピュータなどのデジタル機器やネットワークの点から、授業（授業準備も含む）を行うための準備ができている。 【数値指標】 全体アンケートの「私は、授業（授業準備を含む）や業務に、デジタルを積極的に活用している。」 ⇒教職員の肯定的回答率 80%以上	① ICT活用に関する研修に参加すると共に、研修で得た情報を教職員で共有できるようにする。 ② ICT機器をより効果的に活用できるように、ICT支援員を講師とした研修会や情報主任等を講師とした校内でのミニ研修を計画的に行う。 ③ 校内のデジタル機器の管理やネットワーク環境の整備を行い、使いやすい職場環境を整える。	【達成状況】 <table><tr><td>教職員</td><td>100.0</td></tr></table> 教職員の肯定回答は指標を達成し 100%だった。 【次年度の方針】 引き続き教職員の力量を高めるための校内外の研修に力を入れていく。 ICT機器が使いやすい職場環境を維持していく。	教職員	100.0						
教職員	100.0										

小・中学校、地域学校共通、本校の特色・課題等	B 1 児童は、時と場に応じたあいさつをしている。 【数値指標】 全体アンケートの「児童は、時と場に応じたあいさつをしている。」 ⇒児童、保護者、地域住民の肯定的回答率 80%	① 年間を通して、代表委員や学級ごとの「心のこもったあいさつ運動」を設定することで、あいさつに対する意識付けを図る。 ② 登下校時等校外においても元気にあいさつできるよう、保護者・地域・中学生・旭地域学校園教職員、地域協議会委員などと連携を図り、あいさつ運動を実施する。 ③ 「あいさつ運動」に向けて標語募集。	【達成状況】  児童、教職員、地域住民において、肯定回答は指標を達成したが、保護者は1.8ポイント指標を下回った。 【次年度の方針】 全職員共通理解のもと、教職員が率先してあいさつを行う。 児童を認め励ましていくことで、あいさつの習慣化を図る。 あいさつ運動を年間通して行い、児童自身があいさつする大切さや気持ちよさを体感し、地域においてもあいさつの日常化を図っていく。 あいさつ運動やあいさつに関する日頃の様子について、懇談会や三共通信、ホームページなどで発信していく。 あいさつ運動の実施方法を検討していく。
	B 2 児童は、きまりやマナーを守って、生活をしている。 【数値指標】 全体アンケートの「児童は、登下校での交通ルールなど、きまりやマナーを守って、生活をしている。」 ⇒教職員、保護者、地域の肯定的回答率 80%以上	① 「築瀬小学習のきまり」を活用し、学習準備・姿勢・鉛筆の持ち方・返事・片付け等、学習を支える技能や態度の徹底指導に努める。 ② 「築瀬小よい子の一日」を活用し、学校生活のきまりについて教職員が同歩調で継続的な支援に努める。 ③ 「立腰」に取り組み、落ち着いて学校生活を始められるように努める。	【達成状況】  すべての対象において、肯定回答は指標を達成し、児童・教職員・地域住民で指標を10ポイント以上上回った。 【次年度の方針】 全職員が同歩調で指導していくことができるよう、年度初めに重点項目を確認し指導の徹底を図る。 基本的生活習慣に関しては、来年度も児童会と協力して、きまりやマナーなどを守れるように指導方法を工夫していく。 来年度も引き続き、落ち着いて学校生活を始められるよう朝の活動として、「立腰」に取り組みさせる。
	B 3 保護者との信頼関係が築かれ、家庭との連携が図られている。 【数値指標】 全体アンケート「学校は、保護者と連絡を密にしながら、指導に当たっている。」 ⇒児童、保護者の肯定的回答率 80%	① 保護者との信頼関係が保てるよう、児童のよい面やよくなったこと、できるようになったこと等を連絡帳や電話・家庭訪問等で保護者に積極的に伝えるよう努める。 ② 児童の問題行動等については、迅速な対応のために「報・連・相」を行い、組織を機能させ、家庭と連携しながら解決に当たる。 ③ 授業参観、保護者懇談会を通して児童の成長や課題を話し合いともに育てる意識を育てる。	【達成状況】  児童、教職員において、肯定回答は指標を達成したが、保護者は1.6ポイント指標を下回った。また、教職員と保護者に21.6ポイントの差がある。 【次年度の方針】 児童の様子を見取り、よい面やよくなったこと、できるようになったことなどを積極的に連絡帳や電話で伝えていく。 授業参観、保護者懇談会を通して、学校生活における問題点や改善点等を話し合うことで、連携を深めていく。

B 4 児童は自己存在感をもって、居がいのある学校・学級で過ごしている。 【数値指標】 全体アンケート「自分の学級は居心地がよいと思う。」 ⇒児童、保護者の肯定的回答率 85%	① 学校教育目標を常に意識しながら、お互いの良さを認める機会を意図的に設定するなどして、自己存在感を高めていく学級づくりを工夫する。 ② 道徳の授業において、ICT を有効活用し、自分の考えを伝え合う活動の充実を図る。 ③ 児童同士の関わりを深め、学校生活においてより良い人間関係を築いていけるよう学校活動の工夫を図る。	【達成状況】  <table><tr><th>対象</th><th>率 (%)</th></tr><tr><td>児童生徒</td><td>93.5</td></tr><tr><td>教職員</td><td>100.0</td></tr><tr><td>保護者</td><td>88.9</td></tr></table> すべての対象において、肯定回答は指標を達成した。 【次年度の方針】 児童会活動や学級活動の中で、多くの児童が活躍できる場を意図的に設け、お互いの良さを認める機会を設定するなどして、自己存在感を高めていく活動を工夫し行っていく。 道徳の授業において、タブレットを有効活用するなど、自分の考えを積極的に伝えることで、児童同士の関わりを深め、学校生活においてより良い人間関係を築いていけるようにする。	対象	率 (%)	児童生徒	93.5	教職員	100.0	保護者	88.9
対象	率 (%)									
児童生徒	93.5									
教職員	100.0									
保護者	88.9									
B 5 思いっきり遊んだり、自分の健康に対する関心を深めたりして、健康的な生活をしている。 【数値指標】 全体アンケートの「自分は、休み時間等思いっきり遊んだり、自分の健康に関心をもったりして生活をしている。」 ⇒児童、保護者の肯定的回答率 80%以上	① 校庭での遊びの約束を守り、ロング昼休み等を活用して「思いっきり遊ぼう活動」を推進し、友達との外遊びを継続的に奨励する。 ② 休み時間の外遊びに関して、運動委員会の児童を中心とした活動の企画を引き続き行い、運動に親しむ機会を多く設ける。 ③ 保健便りを毎月1回発行して、健康・衛生面を含め、健康に対する関心や家庭の意識の高揚を図っていく。また、養護教諭と連携を図った保健学習を計画的に実施し、充実させていく。	【達成状況】  <table><tr><th>対象</th><th>率 (%)</th></tr><tr><td>児童生徒</td><td>85.9</td></tr><tr><td>教職員</td><td>97.0</td></tr><tr><td>保護者</td><td>92.5</td></tr></table> すべての対象において、肯定回答は指標を達成し、教職員と保護者は、指標を10ポイント以上、上回った。 【次年度の方針】 ロング昼休み等を活用して「思いっきり遊ぼう活動」を推進し、休み時間や昼休み等、友達との外遊びを継続的に奨励する。 体育館を活用して、多くの児童が運動する機会を増やす。 休み時間の外遊びに関して、運動委員会を中心とした活動を来年度も引き続き行い、運動に親しむ機会を多く設ける。 次年度も継続して保健だよりを毎月発行し、保護者や児童に向けて正しい情報を発信していく。 保健学習に関して、担任と養護教諭の連携を密にし、計画的に実施していく。	対象	率 (%)	児童生徒	85.9	教職員	97.0	保護者	92.5
対象	率 (%)									
児童生徒	85.9									
教職員	97.0									
保護者	92.5									
B 6 読書活動の充実に努め、心豊かな児童の育成に努める。 【数値指標】 全体アンケート「先生方は、自分たちのために、学校や家庭で楽しく読書できるよう、工夫している。」 ⇒児童、保護者の肯定的回答率 90%以上	① 校内読書タイムの充実のために、ボランティアや教職員による読み聞かせや本の紹介等の「読書大好き運動」を推進する。 ② 家庭での読書の習慣化を図るために、学校図書館便りの発行や親子での読書の推奨等に努める。 ③ ICT機器を活用し、読書活動に関するクラスルームを開設するなどして、児童が本に触れる機会を増やしていく。	【達成状況】  <table><tr><th>対象</th><th>率 (%)</th></tr><tr><td>児童生徒</td><td>86.1</td></tr><tr><td>教職員</td><td>97.0</td></tr><tr><td>保護者</td><td>86.8</td></tr></table> 教職員の肯定的回答は指標を上回ったが、児童・保護者共に指標を下回った。教職員と児童、保護者に10ポイント近く差がある。 【次年度の方針】 引き続き読書活動の充実のため、ボランティアによる読み聞かせや委員会によるイベント活動などに力を入れていく。 学校での取り組みを図書だよりやホームページで発信していく。 家庭で読書活動を充実させるための取組を考えていく。	対象	率 (%)	児童生徒	86.1	教職員	97.0	保護者	86.8
対象	率 (%)									
児童生徒	86.1									
教職員	97.0									
保護者	86.8									

	B 7 学校の公開や情報の積極的な発信・提供が行われている。 【数値指標】 全体アンケート「学校は、学校便りや学校公開などで、積極的に情報を発信・提供している。」 ⇒ 保護者の肯定的回答率 90%以上	① 学校だよりや学校ホームページ等により、取組の見える化に向けて、日々学校の様子を発信することで家庭との連携を深めていく。 ② 地域協議会を中心に地域と学校が目標を共有し、一体となって教育活動や環境整備の充実を図る。 ③ 可能な限り保護者や地域住民へ積極的に学校を公開し、地域とともにある学校を目指す。	【達成状況】  <table><tr><th>対象者</th><th>達成率</th></tr><tr><td>教職員</td><td>100.0</td></tr><tr><td>保護者</td><td>94.6</td></tr><tr><td>地域住民</td><td>100.0</td></tr></table> すべての対象において、肯定回答は指標を達成し、教職員と地域住民は、指標が100%だった。 【次年度の方針】 今年度は、学校だよりやホームページ等を通して、学校の教育活動を発信することができた。今後も引き続き情報を発信し、家庭や地域住民との連携を深めていく。	対象者	達成率	教職員	100.0	保護者	94.6	地域住民	100.0
対象者	達成率										
教職員	100.0										
保護者	94.6										
地域住民	100.0										

〔総合的な評価〕

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

1. 目指す児童の姿（B1 B2 B4 B5を含む） 【数値指標の達成状況】 ・質問 17 項目中、14 項目で数値指標を達成した。 ・数値指標を達成していない3項目は、「宇都宮の良さの理解」「いじめ対策」「時と場に応じたあいさつ」である。 【考察及び今後の方向性】 ・数値指標達成の背景として、教職員が学校教育目標及び学校経営方針の具現化に向け、担当学年・学級、校務分掌等に応じて指導を行ったこと、児童一人一人と集団を育てる教育を実践し、一人一人の思いを引き出したり、相手意識を高めたりしたことが挙げられる。 ・「宇都宮の良さの理解」では、保護者の肯定的回答が目標とする数値指標より2.9ポイント下回った。しかし、前年度と比べると3.7ポイント上回っている。引き続き、築瀬地区や市の伝統的な行事、イベント等への参加推奨に地域協議会と連携を図って取り組んでいく。また、学校や地域での取り組みについて、保護者や地域住民にホームページや回覧板を通じて情報提供したり、児童がまとめた作品等を築瀬地区コミュニティセンターなどに掲示したりする。 ・「いじめ対策」では、保護者の肯定的回答が目標とする数値指標より2.4ポイント下回った。しかし、前年度と比べると2.6ポイント上回っている。学校教育活動全体で、いじめは許されない行為であることを日常的に指導していく。また、児童会との連携を図り、児童から児童への呼びかけによる意識の高揚を図っていく。学年・学級懇談会時や学校便り等を通して学校の取組や児童の活動を随時保護者や地域に知らせていく。 ・「時と場に応じたあいさつ」では、保護者の肯定的回答が目標とする数値指標より1.8ポイント下回った。しかし、児童では5.7ポイント、地域住民では10.5ポイント肯定的回答が上回っている。児童会を中心とした「あいさつ運動」をはじめとして、家庭や地域学校園、地域と連携を図ったあいさつ運動の実施など、具体的な取り組みをより一層進める。また日々の教職員による率先したあいさつに努めていきたい。 2. 目指す学校の姿（B3 B6 B7を含む） 【数値指標の達成状況】 ・質問 10 項目中、7 項目で数値指標を達成した。 ・数値指標を達成していない3項目は、「業務の効率化」「家庭との連携」「読書活動の充実」である。 【考察及び今後の方向性】 ・数値指標達成の背景として、教職員が多様な児童の特性や不安、悩みなどに応じることができるよう、学習及び児童指導において相互に連携し、「チーム築瀬」のもと、きめ細かな配慮や工夫をしてきたことが挙げられる。 ・「業務の効率化」では、教職員の肯定的回答が目標とする数値指標より1.2ポイント下回った。前年度の肯定的回答と比べ9.1ポイント下回っている。次年度は日課の更なる見直しや業務の改善などを行い、放課後の時間をしっかりと確保できるように努めたい。また、業務に優先順位をつけた取り組みや、校内の協力・協働体制をさらに充実させるために教職員間の報告・連絡・相談を強化し情報共有を進める。 ・「家庭との連携」では、保護者の肯定的回答が目標とする数値指標より1.6ポイント下回った。しかし、昨年度に比べると2.4ポイント上回っている。学級懇談会や個人懇談会で、直接話し合う機会を確保したり、連絡帳や電話連絡を利用したりして、こまめに児童のよさや活躍、成長の様子を伝えるなどして保護者との協力体制を築いていく。また、保護者からの申し出については丁寧に聞き取り、常に迅速に対応するようにする。
--

・「読書活動の充実」では、児童・保護者の肯定的回答が目標とする数値指標より約4ポイント下回った。児童の様子から読書への関心は高いと考えられる。図書室の活用や朝の読書タイム、読み聞かせ、学校図書館司書の活用や調べ学習などを通して本の有効活用をさらに進めていく。児童が充実した読書習慣を身に付けられるよう、登校後は読書タイムの徹底、更なる読書に関するイベント（読書週間・読書集会）の充実、保護者との連携を図りながら読書を含んだ学習習慣の確立など工夫していきたい。また、図書便りや学校便り、ホームページを活用して、保護者にも読書に関する学校での取組についてより一層周知していく。

7 学校関係者評価

○子供たちのあいさつについて

- ・下校時の見守りの際に、あいさつをすると子供たちからも返ってくる。
- ・こちらからあいさつをすれば返ってくるが、子供たちからということはありません。学校内で会ったときは子供たちから率先してあいさつができるようになるという。

○保護者との連携について

- ・コロナでの活動自粛期間があり、状況が変わっているのではないかな。
- ・保護者同士も話す機会が少なくなっているのではないかな。
- ・学校に関わりの少ない保護者へのアプローチが必要である。

○全体的な視点から

- ・質問によっては、教職員と保護者の肯定的回答率に開きがあり、問題があると感じる。この開きをどう埋めていくのかの対応が今後必要になってくる。

8 まとめと次年度へ向けて（学校関係者評価を受けて）

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

【学校運営】

・児童一人一人の内面を共感的に受け止め、大切にすると学級・学年経営をもとに、一人一人の児童が居がい感をもてる、明るく活気ある学校づくりに努める。

・「チーム築瀬」のもと、教職員が一丸となり築瀬3つの「共」（共感・共汗・共歓）の具現化を図る。

○保護者や地域との連携を大切に、地域の教育力を生かした教育活動の充実や、地域と共にある開かれた学校づくりの推進に努める。

- ・学校の取組や、児童の頑張りを積極的に各種便りやホームページを通して保護者や地域に発信していく。また、児童一人一人の頑張りが成長なども直接保護者に発信していく。

【学習指導】

○児童の学力、学習意欲の向上のため、学校課題の解決に向けた校内研修を通じた授業力の向上や、一人一人に応じたきめ細やかな指導に努める。

- ・児童の「できた」「分かった」を大切に、学んだことを生かしながら考えが深まっていく授業展開を目指し、主体的に取り組む、共に学び合う児童の育成に努める。
- ・「宇都宮の良さ」については、家庭や地域協議会との連携をさらに強化し、何ができるかを検討し取り組んでいく。また、取組についてはホームページや回覧板を通じて広く情報提供したり、児童たちの作品等を校内や地域に掲示したりする。
- ・「読書活動」については、便りやホームページを活用して、保護者や地域に読書に関する学校での取組についてより一層周知していく。また、家庭の協力を得た家読の推進や、家庭におけるゲーム時間の振り返りなどを呼びかけていきたい。

【児童生徒指導】

- ・全教職員が「築瀬小よい子の一日」を共通理解し、いつ、どこでも、だれにでも同じ指導ができるように取り組む。

○できるようになったことや挑戦したこと、成長が見られことを称賛していくことで、自己肯定感を高め、自己有用感を育てるようにしていく。

- ・「いじめ対策」については、「いじめは許されない行為である」ことを学校全体や学級で日常的に指導していく。また、児童会と連携した取組や道徳教育の充実を図っていく。

○「あいさつ」については、児童会を中心とした活動や中学校と連携したあいさつ運動、家庭や地域と連携を図ったあいさつの励行を更に推進していく。

【健康（保健安全・食育）・体力】

- ・児童が健康で安全に生活できるよう、日常的なうがい、手洗いの励行、教室の換気など行っていく。

○交通ルールやマナーを守る態度を家庭や地域の協力を得ながら育てるとともに、様々な危険を予知し自ら命を守り抜く行動力を育成する。

- ・学校給食を通して食に関する指導の充実やSDG s への意識の高揚を図る。
- ・業間や昼休みなど、校庭での遊びを引き続き励行する。
- ・児童の体力向上や運動習慣の定着に向け、自分の取組の伸びが分かるカード等を作成し活用する。